究研の八十
著和賢仁文摩 範師
空手傳法
師範
摩文仁 賢和 著
行發・館武興・京都
師範
摩文仁賢和著

攻防自在
十八の研究

空手拳法
空手研究叢書第二篇

東京興武館
発行
著者：左 氏名：邦本・中央 氏名：保西小・右列前
（水沢の手絵）
攻防自在

空手拳法十八の研究

第一章
空手豫備運動

第二章
空手の受け方と組手

著者（松本 靜史）（三）

宮本 武蔵（三）

15
第一章
空手の豫備運動

第A型

翼を前に、両足を踏み出し、左足を前に大きく踏み出し、右手を前に大きく出
す。その後、右足を踏み出し、左手を前に大きく出
す。これを繰り返す。

綱要
翼を前に出
す。

綱要
翼を前に
出
す。

綱要
翼を前に出
す。

綱要
翼を前に
出
す。
第二章
空手受け方名稱

受け方名称

A

— 23 —
組手に就いて

B

組手は腕脛の関で、柔髪の着めの関と同である。組手頭絞を二つに分けると、

組手は腕脛の関で、柔髪の着めの関と同である。組手頭絞を二つに分けると、
受け方基本練習法

受け方

盤上へ

甲が右腕を以て乙の左腕を突く、乙は右手を以て甲の手を内横受けに馳せ、甲が受けた通り、繋ぎ受けをなし、第二に外横、繋ぎ受けを常し、それを第二に変える。

受け方

甲は盤上に於て、乙は受け方をはかり、乙は受け方の繋ぎ受けなら、それには受け方の繋ぎ受けはあり、自分自身を突くに至らず、第二の盤上をなす。
第三章
開手型・十八の型
十八の型第二図

二図

左足を二呼後右

に進みながら、體を右

側に開きつつ、左手

は開いたまま前方より上

に向け腕を曲ぎつつ、

水路の先に置き、同時

に右手は開きません。右

背に突き出す。共の

前の掌は前方に向け

は四腕に踏み立ち、

背を真直に立つ。
十八の要第七図

（九）右足にて前方を
蹴りあげて（第八図）
元の位置に足を
引き、同時に腰を
落し、四股に立、左右
同じにして、同時に両
の拳にて裏打ちを
する。（時）右腕は右
腕の

十八の要第七図

（八）同時に、腰を前
方に向けてと同時に、
右手にて横受けをな
し、左手は、掌を前に
向けで左腕下に置く。
（第七図）

—39—

—38—
十八の型第十図

（仰のまわりの位置）

仰に後を振ると同時に、右足を前後に足を後にして横受けをなし。右腰は下の板へに動き、右腰は右腕の筋に寄くへ（仰第十図第十）

— 41 —
十八の型第十二図

（十二）共のままの姿

（陰に第十四図の如く
右向きの姿勢にて、
右に踏み立てて掌を前方
に踏く。第十二図に
準じて、時略より見
るもの。）
十八の型第二十五図

（二十四）仰衝にて

衝を放つ時、同時に左

手にて腕受けをなし、右

手にて鞭受けをなし。

右脚を踏み、左脚を踏み

におり腰へ。

むけて手元のところ

におり腰へ。
（三十六）左手を元の場所より少し前に出すと同時に、右手を元の場所において膝を下にむえて棒へ。

（三十七）左手を元の場所において膝を下にむえて棒へ。
十八の型第二十八図

（二十九）右の動作を

（第十八図）

十八の型終り
第四章
十八の型分解説明
図一 第1解分

図二 第2解分

図三 第3解分

図四 第4解分
図 九 第 解 分

図 八 第 解 分

瞬間十二

瞬間十一

瞬間十

瞬間九

瞬間八

瞬間七

瞬間六

瞬間五

瞬間四

瞬間三

瞬間二

瞬間一

瞬間零
図二十第解分

説明は別紙参照
図四十第解

図五十第解

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると

敵が急襲攻めかけて突いて来ると
附録
武備誌
参考資料記載に就いて

摩文仁賢和

六気手（昭林流）

熱心なる研究者に少しでも益する事が出来れば幸甚の中である。
此手名：骨手 打入人君

须用此手或曰打手前打入

君生吐血饭后打入人君

魂散魂飞

死矣

死矣

不医吐血三人一月面

此手名：爪子 打腮边全

用之若打脾着肝治

- 87 -

- 86 -
解
脱
法

欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲
欲：
古法大剛論章

再論：吾所學此法度，明辨十二時辰，血脈按法，分寸之法。凡人必得此法，方可救人不害人也。人通用醫書曰門之數也。其中有輕重之殊。故立交錯之術，以熟生巧。故中則入，逢人則殺，速則去，慢則入。

位急時可用不可動

十二時血脉的死注气

情是也。
血脈左鼓衝二日突

血脈行頭痛三十日突

- 133 -

- 132 -
四不治

口开不治

目不转珠不治

心撞不治

大儿打，伤鲫所伤
鷹啄雙手勝

窩開習翼手敗
弄雙虎手硬
白猴折筆手敗
猴牛手化步勝
猴牛手化勝步勝
孫文武子云

「不知彼而知己百戰不殆。不知彼知己一戰不勝。不知彼知己、百戰百勝。」

已每勝必殆，故先自其體認而遵時變化。此所謂不戰而屈人兵之極善者也。

発行所

大阪市西成哥津守町四丁目

陳文仁賢和

研究手興武館

粟田書店

原林堂書店

昭和九年十月三十一日發行

昭和九年十月二十五日發行

定價金圓五十銭

倉常藏法十八的研究

—176—
改防護身術空手拳法

発行所
振替東京三九七三番

東京都上野公園総合病院大黒天閣

評の一部

自衛

改防護身術空手拳法

発行所
振替東京三九七三番

東京都上野公園総合病院大黒天閣

評の一部

自衛
<table>
<thead>
<tr>
<th>頭</th>
<th>好</th>
<th>新</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>南洋日日新聞</td>
<td>志村秀吉</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

空手研究

生命線の熱帯の日本

館武興（社究研手空）